

# 「イクケン香川」 たまご育て事業

## みんな de 子育て応援セミナー

### ～幼児期の運動あそびと子どもの育ち～

地域の人と親子や三世代と一緒に触れ合う体験をしてもらうために、子どもと一緒に参加できて子どもの体の育ちを促す運動あそびプログラムを実施。

日時 ● 7月24日（水）10:30～12:00

場所 ● さぬきこどもの国 こども劇場

講師 ● 香川大学教育学部教授・医学博士 山神眞一先生

参加者：大人 47人 子ども 59人

ボランティア 大学生 2名 小学生 3名

★まずは、山神先生から乳児期は「しっかり肌を離すな」、幼児期は「肌を離して、手を離すな」と言われているように、しっかりと遊びを通して、大人と子どもが肌と肌を合わせながら関わりを持つことがとても大切なこと、その中から、子どもとの愛着形成が行われ、「安心感」「信頼感」「自己肯定感」を養うことができるということをお話しいただきました。



★次は、実際に体を使って、大人と子どもがほっぺとほっぺを合わせ、しっかりと顔をみながら話をして、ふれあいを楽しみました。大人にも子どもにも一気に笑顔が広がり、笑い声や、子どものはしゃぐ声が聞こえてきました。そのまま抱っこしてゆらゆらしたり、大人が仰向けに寝ころがって、膝の上に子どもを乗せたり（写真）どんどん遊びはダイナミックになっていきます。



★次は風船を使って遊びました。まずは、大人が風船をふくらませ、口を結ばずに吹き出た風を子どもにかけてみます。子どもはその時の音や風を五感で感じ、大はしゃぎでした。



### 【風船を膨らませて、高くとばしてタッチ】

どこに飛ぶか分からない風船を追いかけて、タッチしようとする中で、子どもは遊びを通して体の動きを学んでいくのだそうです。

### 【ビニルテープで作る風船ボール】

子どもたちは、自由にビニルテープを貼って風船にデザインをして楽しみました。テープを貼ることで、風船は重くなり、それを追いかけたり、飛ばしたりするにはより難しい体の動きが要求されます。



★最後は新聞紙を使いました。



### 【新聞紙をお腹にあてて、落とさないで走る】

### 【新聞紙を頭に乗せて、落とさないように歩く】

ただ走る、歩くではなく、新聞紙というものがあるだけで、目的に合わせて自分の体をコントロールしながら動くということを自然と学んでいる、そんな場面でした。

その後、子どもたちは新聞紙で自然に尻尾を作って走ったり、マントにしたり、顔を隠して忍者になったりと、自由な発想が止まりません。また、その発想に先生が「いいねえ～」と声をかけることで、ほかの子どもも、もっと新しいことを！とどんどん発想が膨らんでいく様子が見られました。

身近にあるもので、こんなにも子どもたちが自由に発想し、楽しそうに遊ぶことができる、それも新しい発見でした。

## 参加者アンケートより(一部抜粋)

- 子どもと向き合って、時間を過ごすことができよかったです。家でもできる遊びも多くあったので、休日など時間を見つけてやってみたいと思います。
- 室内でもできる遊びを身近なもので教えてもらって良かった。子どもも楽しんでいました。
- 楽しそうでした。引っ込み思案ですが、わいわいやっていたのを見て安心しました。
- またやりたい！と大満足だったようです。山神先生の話し方もとても好感が持てました